

JPCOAR発／



## 新情報誌創刊！

JPCOARから新しいオンライン情報誌が生まれました。

会員機関のみなさんと一緒に、学術情報流通に関する知りたい情報・役立つ情報を発信していきます。「CoCOAR」をどうぞよろしくお願いいたします。

## JPCOARへの期待

オープンアクセスリポジトリ推進協会会長  
早稲田大学 図書館長  
深澤 良彰



図書館は、「知の宝庫」と呼ばれてきました。そこには、書籍や雑誌を中心とした資料が用意され、利用者は研究・教育のためにそこに通り、静かな時を過ごしていました。しかし、このような機能しか持たない図書館は、すでに過去の遺物になってきています。

「新しい時代の図書館」を実現するために取り組まなければならない問題は多くあります。

この中の一つに、機関リポジトリがあります。1991年に端を発する機関リポジトリは、当初は、「インターネット時代のプレプリントの提供」という扱いであり、各大学・研究機関が、その構成員の知的な成果物をデジタル形式で保存し、インターネット上で発信するシステムでした。

ここから2つの問題が提起されてきています。

- (1) 各機関が機関リポジトリ用サーバをもつことの難しさ：ハードウェアの低廉化により、各大学がサーバそのものを用意することは容易になってきていますが、そのサーバに高いセキュリティを持たせながら運用・保守することは容易ではありません。このために、機関リポジトリシステム基盤の共同運営と有効活用を進め、機

関リポジトリがもつ公開コンテンツの充実が必要となります。

- (2) 研究データのオープン化への期待：従来は、「知的な成果物」と言っても、最終的に公開される論文をその対象としてきました。論文の公開だけなら、その記憶形式を容易に統一できますし、これに、さまざまなメタデータを付与することは図書館職員には慣れたものです。しかし、近年は、研究の発展性を確保するため、研究の再現性を担保するため、研究データのオープン化が要求されてきています。研究データの形式はさまざまであり、その公開は大変難しい問題です。

これを実現していくためには、担当者の人材育成も必要でありますし、国際的な取組みに対する積極的連携も欠かすことができません。

オープンアクセスリポジトリ推進協会は、機関リポジトリの発展に向けたこのような課題の解決に、国内の大学・研究機関が力を結集し、共同で取り組んでいくための組織です。本協会の今後の大きな貢献に対して、期待をもって、そのスタートを祝いたいと思います。

誌 名

ロゴマーク

## JPCOAR Newsletter CoCOAR



JPCOARのオンライン情報誌を創刊するにあたり、会員機関のみなさんから誌名とロゴマークを募集しておりましたところ、多くのご応募をいただきました。ありがとうございました。

誌名は、九州大学附属図書館から寄せられた「JPCOAR Newsletter」と、東京大学附属図書館から寄せられた「CoCOAR」を合わせ、「JPCOAR Newsletter : CoCOAR」と決定しました。「ココア」と読んでください。

ロゴマークは「日本らしさ」「結束」のイメージから、甲南大学図書館 今野 智子さんに作っていただきました。

ロゴ作成 - 甲南大学図書館 今野さんのコメント：

ロゴのデザインは、日本の伝統文様「束ね熨斗（たばねのし）」を元にしました。

ハレの日に使われる熨斗には、「末永く」という願いが込められています。様々な機関が協力して学術情報を収集・保存し、日本から世界に向けて学術情報を発信することをイメージしました。

みなさんの役に立つ、親しみやすい情報誌と一緒に作っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（広報普及作業部会）

## 『JPCOAR Newsletter : CoCOAR』 発刊によせて

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員長  
筑波大学学術情報部長  
岡部 幸祐



この度、広報誌『JPCOAR Newsletter : CoCOAR』を発刊することとなりました。

この「CoCOAR」は、会員機関の皆様へ機関リポジトリやオープンアクセスに関する最新の情報を提供するだけでなく、会員機関間の情報共有を促進し、機関リポジトリコミュニティを強化していくこともその目的としています。そのため、会員機関の皆様に親しみをもっていただけるよう誌名を公募し、審査の結果、『JPCOAR Newsletter : CoCOAR』と名付けました。「CoCOAR」は、「ココア」と読み、「Community, Collaboration」の「Co」とJPCOARの「COAR」を合わせたものです。

この「CoCOAR」は、JPCOARの3つの作業部会（JAIRO Cloud運用作業部会、研修作業部会、広報普及作業部会）と4つのタスクフォース（研究

データタスクフォース、研究者情報連携タスクフォース、OA方針成果普及タスクフォース、メタデータ普及タスクフォース）で行っている活動を会員機関の皆様に知ってもらい、それぞれの活動成果を皆様と共有できる場としていきますが、同時に会員機関皆様からの投稿もお寄せいただき、双方向の情報交換の場としてJPCOARの活動を盛り上げていくことができればと考えております。さらには、JPCOARの活動を社会に発信することで、オープンアクセスを推進する一助ともなれば幸いです。

『JPCOAR Newsletter : CoCOAR』が会員機関皆様に愛され、皆様とともに作っていく広報誌となることを願っております。何卒ご協力、お力添え頂けますようお願いいたします。

# 学術機関リポジトリの最新動向-オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR) の取り組み

2017年6月7日(水)～9日(金)まで、NIIで開催されたオープンフォーラム内「リポジトリトラック」では、学術機関リポジトリの最新動向-オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)の取り組み-と題し、リポジトリに関連する国内の最新動向について情報提供が行われた。当トラックでは、13件の発表があり、JPCOARの体制(各作業部会、タスクフォースの活動内容)、JAIR Cloudの紹介・事例報告、JPCOARスキーマ適用に向けての動き、オープンアクセス方針など、様々な報告が行われ、参加者と活発な意見交換がされた。

司会：広報普及作業部会主査 尾崎 文代(鳥取大学)

## ■「開会挨拶 趣旨説明」岡部 幸祐(筑波大学)

2016年7月に、新しいコミュニティ：オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)が誕生した。現在、参加館は490機関を超える。

リポジトリの課題解決を目的とするJPCOARを通じて、リポジトリコミュニティの強化をするとともに、学術機関リポジトリをとりまく状況を踏まえて、リポジトリを通じた知の発信システムの構築を行い、オープンアクセス(OA)・オープンサイエンス(OS)を進めていきたい。

## ■「JPCOAR詳細紹介」山本 和雄(琉球大学)

JPCOARは、運営委員会をはじめ、4つのタスクフォース(TF)(研究データTF、研究者情報連携TF、OA方針成果普及TF、メタデータ普及TF)、3つの作業部会(JAIR Cloud(JC)運用作業部会、研修作業部会、広報普及作業部会)から成る組織である。

作業部会の動きとしては、JC運用作業部会では、JC利用サポートや勉強会を行い、コミュニティを強化する。研修作業部会は、研修会の実施、教材の更新などを行う。

広報普及作業部会は、情報誌の企画・発行、facebookの立ち上げ等、情報の発信・共有をはかる。各作業部会、TFで問題を共有・業務を分担し、解決へと進めていきたい。

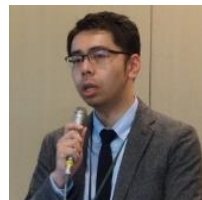


## ■「JAIR Cloud紹介」田口 忠祐(国立情報学研究所)

JAIR Cloudは、JPCOARとNIIの共同運営している共用リポジトリである。

NII内で開発した機関リポジトリソフトウェアWEKOをベースにシステム環境を構築している。

今年度夏には著者名典拠管理機能、ERDB-JPと連携している雑誌情報の表示等、新機能のアップデートを予定している。NIIでは、JPCOARと協力しユーザーが便利になるよう改善をおこなっていく予定である。



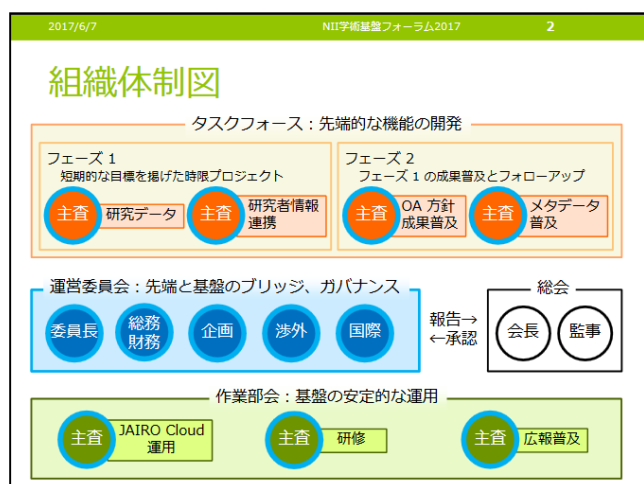
## ■「北見工業大学におけるJAIR Cloud 移行事例紹介」山本 至(北見工業大学)

2017年2月、北見工業大学は、DSpaceからJCへ移行した。コンテンツ数は2,000程度という中小規模の実例発表。JCへの移行が可能かの検討、スケジュールの決定、サーバからのデータ抽出、JCへの一括データ登録、公開に向けた広報、リニューアルオープンまでの説明があった。システムに強いとはいえない図書館職員と周りの技術員とが連携し、順調に移行を完了した。



## ■「5年目を迎えて」後藤 明日香(東洋大学)

東洋大学は、2012年11月にJCを導入した。現在の登録コンテンツ数は約6,000件。発行主体部署とのコミュニケーションをととても大切にしている。発行主体部署から広く意見を聞き、リポジトリバナーやページ改善のヒントを得る等、信頼関係を築いている。また、JCの利用(登録)には、特殊なスキルは必要なく、簡単で安心。全国に同業務を行う「仲間」と問題解決ができるツールもあり、満足している。





## ■「機関におけるリポジトリの可能性を探る～タスクフォース活動紹介」 高橋 菜奈子 (千葉大学)

研究データ共有・公開や大学としての情報公開・ポリシーの明確化などが求められるようになった中で、研究データTF・研究者情報連携TF・OA方針成果普及TF・メタデータ普及TFの4つを立ち上げ、研究者や出版社、政府、市民などのステークホルダーとリポジトリとを繋ぐ先進的な機能開発とその成果の発信にあたる。JPCOARは、3つの作業部会による安定的なOA基盤の上に、TFによる先進的な活動があり、これを通してIRを通じた知の発信システムの構築、OA・OSの推進を図り、もって各機関・大学へ貢献したい。様々なIRの可能性をひとつひとつTFで探っていく。

## □■メタデータ検討タスクフォース■□

### ■「メタデータ検討タスクフォース 報告」

高橋 菜奈子 (千葉大学)

タスクフォースの設置目的は、junii2の改訂と国際動向・技術に合わせた新スキーマ (JPCOARスキーマ) の設計、それに伴うケーススタディ策定とIRへの適用・実装支援である。2016年度中には、改訂の検討と同時に、改訂の基本方針に基づく意見交換イベントの開催や、JPCOARスキーマのガイドライン案を公開し、パブリックコメントを実施するなどした。

今後は、TFとして成果普及のフェーズに入ったため、JPCOARスキーマの周知のほか、解説・サービスイメージの提示や、COAR Controlled Vocabularies Editorial Boardへの派遣などを計画している。



### ■「メタデータスキーマ改訂の背景:なぜ新しいスキーマが必要なのか？」 林 豊 (九州大学)

改訂の目的として、経年による情報環境の変化はもちろん、日本発のコンテンツで、世界中で使われる学術サービスに貢献すること、より正確に、非独立的にコンテンツを管理することなどが挙げられる。このため、Junii2の弱みであった要素不足や記述の厳密さ、国際流通への対応を重点的に検討した。改訂に際して特にOpenAIRE等のスキーマを重視して参考にしていく。

今後のサービスイメージの一例として、特定の論文についてOA化されているバージョンをガイドするアプリケーションとの連携が挙げられる。こういった連携を活かすために、新スキーマで厳密に管理された記述を達成したい。



## ■「JPCOARスキーマガイドライン案の解説」

香川 朋子 (お茶の水女子大学)

改訂の主眼となった、(1) OA・OS等方針に対応した要素拡充、(2) 識別子拡充と階層化、(3) 国際的な相互運用性向上のためのスキーマ定義の3点を中心に解説する。

(1) については、権利情報や位置情報、助成機関情報などを追加することで、学術成果の公開促進や研究データの流通に対応した。(2) は、著者名・所属・識別子などを階層化によりグルーピングすることで、それぞれの関連付けを明確にし、より正確なメタデータが記述できるようにした。(3) としては、海外の主要連携先における記述要素を採用したり、国際的な統一語彙である COAR Controlled Vocabulariesを採用するなどしている。流通性の高い語彙の採用により、相互運用性・持続可能性の向上と同時に、共通的な課題解決の機会も生じている。

今後のJPCOARスキーマの普及活動として、リポジトリ関係者向けに、スキーマ自体の説明やシステムへの実装、活用事例の提供を進める一方で、ユーザー向けに研究データ等に対応した検索サービスの提案も目指していく。



## ■「JPCOARスキーマの適用に向けて」

片岡 真 (国立情報学研究所)

スキーマの対応状況と活用について述べる。

対応状況について、すでにいくつかのベンダーのシステムにおいて対応可能であることを確認している。スキーマはダブリンコア等と独自要素の組み合わせであるが、ダブリンコア要素はマッピングなしで検索・表示できている。また、JAIRO (IRDB) は2018年度夏頃、JAIRO Cloudは2019年度にそれぞれ本格運用の開始を見込んでいるが、しばらくはjunii2と併用することとなる。

活用について、JPCOARスキーマによってより様々なサービスが繋がることが期待される。特に、ORCIDの活用によるKAKENをはじめとしたファンドデータベースとの連携は大きな意味を持つと思われる。研究機関の研究成果DBとリポジトリおよびJAIROとを繋げる、そのために、両者の間で大きな差異のあったメタデータの調整が必要となる。相互に連携できるよう、KAKEN側のメタデータへ働きかけると同時に、JPCOARスキーマも歩み寄ることで成果情報の照合を図りたい。

このほか、デジタルアーカイブ等でも、元々DBごとにバラバラであったメタデータを、JPCOARスキーマによってマッピングすることができないか検討している。最後に、CiNiiも、従来の検索に加え、新スキーマの活用をベースとして、研究データや研究者情報も検索できるものにしたいと考えている。



■ 「研究データTFの活動（全体報告）」

尾城 孝一（国立情報学研究所）

研究データ公開が求められる背景には、OSの推進と研究公正の流れがあり、ここにおいて、リポジトリ構築や大学図書館へはデータのオープン化支援、研究成果散逸等の防止、人材育成などの役割が期待されている。これを受けて、2016年度の活動では、研究データ管理の基礎知識を学ぶことができるRDMトレーニングツールの開発と、持続困難なデータベースのデータ移行等の救済検討、データジャーナル「Polar Data Journal」の創刊などのケーススタディによる、データ管理ノウハウの蓄積に取り組んだ。2017年度も同様の取り組みを進めつつ、蓄積した知見をデータリポジトリ構築のための機能要件として整理する。

現在、NIIのオープンサイエンス基盤研究センターにて、研究データ管理の基盤となる新サービスの開発に取り組んでいるが、そちらとも協力して活動を進めていきたい。



■ 「RDMトレーニングツールの開発」

西菌 由依（鹿児島大学）

RDMトレーニングツールは、研究データ管理に関する基礎的な知識の習得と、各機関におけるRDMサービス構築の足掛かりとなることを目的としている。内容は全7章からなり、各章はデータの生成から再利用に至るデータライフサイクルの各段階に対応した内容を含んでいる。各章では、データ管理を複数の背景から定義づけ、重要性の意識付けを図ったり、データ管理計画の構成、保存や共有の上での機関のセキュリティポリシーとの兼ね合い、法的・倫理的問題や機関としてのデータ管理サービスの設計など、様々な論点をまとめている。本ツールは、研究データ管理の基礎的な知識を整理し、データ管理を機関として動かしていくための教材だが、各機関が実状に即した独自のサービス設計を行うことが重要であり、本ツールがその一助となることを期待している。

今後は、教材をWebサイトで公開するほか、JMOOCによる講座を開講し、活用を促進する。また、持続的に内容のアップデートや拡充を行う。より良いツールとするため、みなさまのご参加・ご意見をお願いしたい。



■ 「論文OAタスクフォースの活動（全体報告）」 島 文子（北海道大学）

OA方針策定支援やポリシー策定後の実施支援、OA活動や達成度についての評価・検証が論文OAタスクフォースの目的である。2016年度はOA方針策定支援・OA実施支援・OA評価・トラッキングの3つの課題に取り組んだ。

OA方針策定支援は当初OA方針のひな形を作成する予定だったが、事例調査を行った結果、OA方針策定時に全体像が分かるツールが必要ということになり、オープンアクセス方針策定ガイドとリンク集の作成・公開を行った。

OA実施支援はOA方針策定済みの大学におけるワークフロー調査を実施するための準備を行った。2017年度に調査を実施し、オープンアクセス方針策定ガイドを充実させていく。研究者DB（Researchmap）連携機能の開発・実証実験を行う予定だったが、Researchmapの開発計画などもあり、実現していない。

OA評価・トラッキングはOAモニタリングシステムの開発を進めており、今後も取組を継続していく予定である。

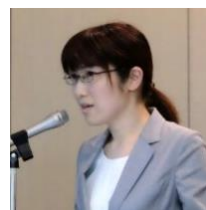


■ 「オープンアクセス方針策定ガイドについて」 関澤 智子（新潟大学）

2015年度に先行大学の調査を行い、支援ツールの素案を作成し、2016年度にオープンアクセス方針策定ガイドとオープンアクセス方針リンク集を作成・公開した。

オープンアクセス方針策定ガイドは2017年2月にJPCOARウェブサイトで開催している。OA方針実施計画から策定後のROARMAPの登録手順まで、OA方針策定の全体像がわかる構成とした。

オープンアクセス方針リンク集もJPCOARウェブサイトにて公開している。情報があれば、お寄せいただきたい。





## 開催中！機関リポジトリ新任担当者研修

JPCOARを立ち上げて1年目の研修ということで、2017年度は国立情報学研究所の会場をお借りして開催しています。

多くの方々にご協力いただきつつ、有意義な研修になるよう研修作業部会で分担・協力し、教材作成から講師、運営事務業務を行っています。



関東からの参加者が多く、東京、千葉、神奈川のみで全体の45%を超えていますが、遠くは沖縄、北海道からの参加者もいらっしゃいます。受講された方々からは「ただ実務としてこなす知識を得るためだけでなく、本当に役に立つリポジトリを作るための研修だった」「時間よりも内容がいっぱいだったと思う。その分、多くを知ることができたが、もう少し余裕が欲しい」「リポジトリの存在意義や活かし方等が見えてきて、もっと自館のリポジトリの成長に携わりたいという気持ちわいてきた」「地方での開催も希望する」等の感想を頂いています。

既に第4回までのお申込みは締め切っておりますが、第5回は受付中です。今年度の機関リポジトリ新任担当者研修を受講いただいている機関は、JAIR Cloud操作説明会への参加申込みも可能です。受講を希望される方はJPCOARのホームページにて実施要領でプログラムをご確認の上、研修申込フォームからお申し込みください。[https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page\\_id=57](https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=57) (研修作業部会)

2017年度機関リポジトリ新任担当者研修実施状況(会場はすべて国立情報学研究所)

受講申込者所属機関種別割合

|     | 開催日                  | 申込期限           | 研修プログラム        | 申込者数 |
|-----|----------------------|----------------|----------------|------|
| 第1回 | 2017年6月29日(木)～30日(金) | 2017年5月8日(月)   | 新任担当者研修_研修     | 58   |
|     |                      |                | 新任担当者研修_JC操作説明 | 50   |
| 第2回 | 2017年7月27日(木)～28日(金) | 2017年6月5日(月)   | 新任担当者研修_研修     | 39   |
|     |                      |                | 新任担当者研修_JC操作説明 | 34   |
| 第3回 | 2017年8月24日(木)～25日(金) | 2017年7月3日(月)   | 新任担当者研修_研修     | 28   |
|     |                      |                | 新任担当者研修_JC操作説明 | 25   |
| 第4回 | 2017年9月21日(木)～22日(金) | 2017年8月7日(月)   | 新任担当者研修_研修     | 45   |
|     |                      |                | 新任担当者研修_JC操作説明 | 39   |
| 第5回 | 2017年12月7日(木)～8日(金)  | 2017年10月16日(月) | 新任担当者研修_研修     | 19   |
|     |                      |                | 新任担当者研修_JC操作説明 | 19   |

|        |       |
|--------|-------|
| 私立大学   | 50.4% |
| 国立大学   | 26.0% |
| 公立大学   | 16.5% |
| その他    | 4.7%  |
| 短期大学   | 1.6%  |
| 高等専門学校 | 0.8%  |

※赤字は2017年9月5日現在の数です。

## 開催決定！JPCOARスキーマ説明会

JPCOARでは、日本の機関リポジトリのメタデータの国際的な相互運用性を確保し、日本の学術的成果の円滑な流通をはかるため、新しいメタデータスキーマ「JPCOARスキーマ」を2017年10月にリリースします。以下の通り説明会を開催いたしますので、多数のご参加お待ちしております。

- ・日時：2017/10/10(火) 14:00～17:00
- ・会場：国立情報学研究所(NII) 12F
- ・定員：120名(申込先着順)
- ・参加申込フォーム(申込締切：2017/10/3(火))：<https://jp.surveymonkey.com/r/73H7CXL>
- ・問い合わせ先：JPCOARメタデータ普及タスクフォース [irtf\\_metadata@nii.ac.jp](mailto:irtf_metadata@nii.ac.jp)

### 編集後記

『JPCOAR Newsletter: CoCOAR』創刊号が完成しました。これから新しい情報を取り入れ、皆さまの役に立つ、愛される誌面を目指してまいります。次号をお楽しみに！

惜しくも落選したロゴ案たち



Webサイト：<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

Facebook：<https://www.facebook.com/jpcoar/>



JPCOAR Newsletter: CoCOAR 創刊号

2017年9月27日 発行

オープンアクセスリポジトリ推進協会

